

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 1 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370750

研究課題名(和文) 大学英語教育におけるコーソーシングの展開とその評価のための基礎研究

研究課題名(英文) A Basic Study on Co-sourcing of English Education at University Level and Its Assessment

研究代表者

山中 司 (YAMANAKA, Tsukasa)

立命館大学・生命科学部・准教授

研究者番号：30524467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現状では未だ国内での戦略的活用が十分になされていないと考えられる、大学英語教育及びそれに関連する業務の外部資源の活用(アウトソーシング)に着目し、適材適所で外部リソースを活用する場合、どのような場面を想定し、どのような選定基準を設けることで、組織・機関の英語教育の質を総合的に高めることができるのかを検討する基礎研究であった。本研究は、戦略的に外部資源を取り入れることで、米国をはじめとする諸外国の大学英語教育や、広く日本の企業の多くで日常化しつつある「コーソーシング」による利点を活かした理論構築とケース分析を試みたものであり、同時にプロトタイプとしてモデル事業を実施し、知見を集積した。

研究成果の概要(英文)： This study explored the possibility of outsourcing function in Japanese English education at university level. The outsourcing/co-sourcing is one of the (new) ways to utilize outer resources including companies in order to make educational outcomes at university more meaningful to the students. However, many Japanese universities seem to hesitate to incorporate it strategically as a system because of the lack of sufficient precedents in not only English education but also other operations.

The study attempted to construct a theoretical foundation of co-sourcing that you could quite often see in overseas universities, and analyze some representative cases as typical models. Moreover, by clarifying advantages of co-sourcing of English education at universities, it practiced one co-sourcing trial at the final year on the field of study abroad operation at A university. Though that case being practiced, It accumulated pragmatic knowledge to make it realized.

研究分野：言語コミュニケーション論、言語哲学、英語教育

キーワード：アウトソーシング コーソーシング 大学英語教育 留学(送り出し)業務 ケース分析 評価 基礎研究 シナジー

### 1. 研究開始当初の背景

日本の産業界、また米国をはじめとする海外の大学では広く行われているアウトソーシング/コーソーシングは、大学英語教育において今後開発・発展の余地が大きい。ところが一般に、これまでの日本の大学英語教育においては、外部資源の戦略的活用について消極的であった感が否めない。この理由は複数あると思われるが、その一つに、安易な業務委託、すなわち業務丸投げとの混同による、本来持っているコーソーシングの価値の矮小化がある。未だ国内で、大学英語教育におけるアウトソーシング/コーソーシングの事例が少なく、経験値が少ないために、典型的とされるモデルが欠如していると思われ、この構築は急務である。

日本の大学外での英語産業は、その経済規模からしても右肩上がりの成長を見せている。すなわち大学の「外」で活用を待っているリソースは豊富に存在し、それらの一部を戦略的に大学英語教育に取り入れることによって、大学英語教育の質の向上と共に、事務的側面を含めた種々の効率化に寄与できる可能性は小さくない。ただし、これを実現するためには、(1) 外部資源の活用方法、(2) 質の高い外部資源の選定、の双方における一定の方針が定まっていることが不可欠となる。

### 2. 研究の目的

本研究は、現状では未だ国内での戦略的活用が十分になされていないと考えられる、大学英語教育における外部資源の活用(アウトソーシング)に着目し、適材適所で外部リソースを活用する場合、どのような場面を想定し、どのような選定基準を設けることで、組織・機関の英語教育の質を総合的に高めることができるのかを検討した基礎研究である。大学英語教育におけるアウトソーシングは、英語教育の丸投げを意味しない。あくまで限定的に、ただし戦略的に外部資源を取り入れることで、米国をはじめとする諸外国の大学英語教育や、広く日本の企業の多くで日常化しつつあるコーソーシングによる利点を活かすモデルを構築し、具体的な新規アウトソーシング事業を手掛けることで実践知を蓄積する。成果は英語教育関係者が選択できる1つの方法論として広く一般に発信する。

### 3. 研究の方法

大学英語教育におけるアウトソーシング/コーソーシングは事例に乏しく、未だ十分に着目された方法論ではない。したがってまずは基礎的知見を得るため、広く社会一般で行われているコーソーシングの現状を調査し、大学英語教育に活用する観点から考察を纏めた。特に近年の産業界におけるアウトソーシングでは、人材教育において外部資源の積極的活用が多く見受けられるが、間接的に大学英語教育に示唆を与える特徴的な事例

から調査を行った。特に大学の業務のアウトソーシング事例として、X大学のケースを取り上げ、現地に赴いてヒアリングをし、何度もデータを取り寄せる等してやり取りを重ねた。

さらに英語教育のアウトソーシングの先行事例として、X大学及びY大学、A大学の英語教育事例をケースとして取り上げ、先行事例として調査結果を纏めた。

最後にこれらの理論的検討及び先行事例の調査を踏まえ、利点を兼ね備えたコーソーシングのモデルケースとして、具体的に新規アウトソーシング事業を手掛け、実践知を蓄積した。A大学における学生の留学派遣業務を計画、組織的な合意を取り付け、2017年4月から業務委託を開始した。

### 4. 研究成果

本研究はあくまで基礎研究という位置付けを持つものであり、大学英語教育及びそれに付随する業務が、本研究を基にコーソーシングへ大きく舵を切ることを成果とはしない。しかしながら、本研究を遂行した当事者として、当該分野が単なる英語教育論や教授法論、教育プログラム開発といった範疇に留まるものではなく、労務管理論、行政管理論、法律論、旅行関連業務に関する知識等、プラグマティックで幅広い領域にまたがる分野であり、先行して実施を行う教職員が暗黙的な知見も含めてノウハウを蓄積させる必要性を痛感した。

このような意味で、本研究は問題提起としての役割を果たしたものと認識しており、今後、本研究に関連する種々の研究が続くことで、様々な専門家が関わり、徐々に本領域が新研究分野として形作られていこう。報告者自身も、機会を見つけて、本研究によって得られた成果を積極的に発信していきたい。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

山下 美朋、西澤 幹雄、山中 司、ライフサイエンス系英語語彙指導への一考察 - 学生の科学英語語彙の認知度の現状と課題 -、立命館大学理工学研究所紀要、査読無、75巻、2017、1 - 16

山中 司、グローバル化に対峙せざるをえない日本社会論に関する一考察：漱石の文明開化論の現代的解釈から、立命館大学理工学研究所紀要、査読無、75巻、2017、17 - 29

山中 司、職員の関わり方が引き出す英語教育の賦活 - 「プロジェクト発信型英語プログラム」における積極的なコミットメントを事例として -、立命館高等教育研究、査読無、

山中 司、プラグマティストとしての漱石の可能性：グローバル化に対峙する日本人論への含意を探って、立命館大学理工学研究所紀要、査読無、74 巻、2016、11 - 24

山中 司、河井 亨、「プロジェクト発信型英語プログラム」の実践知 - 立命館大学における成果と課題の共有 -、立命館高等教育研究、査読無、16 巻、2016、219 - 232

YAMANAKA Tsukasa, KONDO Yukie, "Exploring an Adequate Placement Test with Face Validity and Learners' Sense of Reality: A Consideration of the Vulnerabilities in Existing English Assessment Models and an Attempt at a Solution", Ritsumeikan Higher Educational Studies, 査読有、16 巻、2016、147-163

山中 司、大学英語教育におけるプロジェクトを主体とした教育手法の効果：オートノミーの育成と学習への動機付けに着目して、立命館人間科学研究、査読有、32 巻、2015、105-116

山中 司、言語コミュニケーションにおける「希望学」 - 「分かり合う」ことは可能か：W.V.O. Quine, D. Davidson, R. Rorty の議論を出発点に、立命館大学理工学研究所紀要、査読無、73 巻、2015、37 - 44

山中 司、大学英語教育における評価の「無力化」と「実用化」に関する一考察：論文 "A Nice Derangement of Epitaphs" を問題提起として、立命館言語文化研究、査読有、26 巻、4 号、2015、331-344

YAMANAKA Tsukasa, A Report on "English for Science & Technology at UC Davis": The Overseas Program of the Colleges of Life Sciences, Pharmaceutical Sciences, and Sports and Health Science, Ritsumeikan Higher Educational Studies, 査読有、15 巻、2015、101-112

〔学会発表〕(計 10 件)

木村 修平、山中 司、近藤 雪絵、山下美朋、アクティブラーニング型大学英語カリキュラムの独自評価指標の策定：立命館大学プロジェクト発信型英語プログラム、8 年間の取り組みに基づいて、第 23 回大学教育研究フォーラム、2017/03/19、京都大学(京都府京都市)

山中 司ほか、パネルディスカッション：学びへのモチベーションと共同の学びを創造する、利他の哲学が切り開く教育と学校の革新：第 2 回 学習者が主体の協働の学びへ

- 利他の哲学で、2017/03/11、立命館東京キャンパス(東京都千代田区)

山中 司、グローバル時代と英語：英語教育が目指すべき方向性とは何か?、岐阜県立各務原西高等学校教員研修、2017/02/06、岐阜県立各務原西高等学校(岐阜県各務原市)

山中 司、大学理系学部におけるライティング教育の重要性：グローバル化に対峙する日本の大学の現状を踏まえて、CIEE 教育者セミナー、2016/12/17、ドーンセンター(大阪府大阪市)

YAMANAKA Tsukasa et al., The Natural Development of Learning from RITA-learning and Its Significance: A study of the differentiation of general education from RITA-learning in school educational systems, Ritsumeikan Inamori Philosophy Research Center, The 2nd International Symposium: Realizing a society based on Inamori Philosophy, 2016/12/08, 立命館大学(大阪府茨木市)

山中 司、English Poster Presentation for High School Students: 考え方と実践、大阪府立住吉高等学校教員研修、2016/10/06、大阪府立住吉高等学校(大阪府大阪市)

HIRANO Ayako, YAMANAKA Tsukasa, Hasshin English Platform: The Effects on English Learners' Communication and Their Sense of Communicative Supportiveness, Eleventh International Conference on Interdisciplinary Social Sciences, 2016/08/03, Imperial College (London, U.K.)

山中 司ほか、英語教育セミナー：「中高大グローバル教育最前線」、2015 年度 大学英語教育学会(JACET)関西支部秋季大会 第 3 回 全国英語教育学会(JACET)英語教育セミナー、2015/11/28、神戸学院大学(兵庫県神戸市)

山中 司ほか、パネルディスカッション：大学での TOEFL®テスト活用事例、TOEFL アライアンス主催「英語教育改革フォーラム」、2015/11/14、内田洋行シヨールーム大阪ユビキタス協創広場 CANVAS(大阪府大阪市)

〔その他〕  
ホームページ等  
<http://pep-rg.jp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山中 司 (YAMANAKA, Tsukasa)  
立命館大学・生命科学部・准教授

研究者番号：30524467

(2)研究協力者

石田 早苗 (ISHIDA, Sanae)  
千葉商科大学・非常勤講師